

淀川区教育行政連絡会「小学校の部」議事要旨

日 時 令和元年 11 月 18 日（月） 15:00～16:20

場 所 淀川区役所 5 階 504 会議室

出席者 学校長：新東三国 東三国 宮原 三国 新高 西中島 木川 木川南 十三 塚本
田川 三津屋 加島（欠席：北中島 西三国 野中 神津）

区役所：淀川区担当教育次長（区長） 淀川区教育担当部長（副区長）

淀川区教育担当課長 同課長代理 同係長 2 名 同係員

傍 聴：0 人

- 資料 1－1 令和元年度校長経営戦略支援予算 加算配付状況
- 資料 1－2 令和元年度校長経営戦略支援予算（加算配付予算）配付対象校の決定について
- 資料 2 体験型イベントの実施について
- 資料 3 次年度に向けた検討状況～淀川区 教育支援関係事業にかかる主な変更～
- 資料 4 スクールカウンセラー事業 R2 淀川区実施体制（案）
- 資料 5 新聞報道記事
- 資料 6 令和元年度 学校協議会委員研修 アンケート集約
- 資料 7－1 「分権型教育行政」による区内の教育行政に関するアンケート
- 資料 7－2 市政改革に関するアンケート
- チラシ 淀川区生涯学習フェスティバル 2019
- 資料 8 第 10 回絵本展「ものがたりのちから」
- 資料 9 子ども見守り放送に関して区に寄せられたご意見

【次第】

司会：淀川区教育担当課長

◎淀川区担当教育次長（区長）あいさつ

◎議題

- 1 令和元年度 校長経営戦略支援予算加算配付について【公開】
 - 2 ヨドネル睡眠月間について【公開】
 - 3 次年度に向けた検討状況について【公開】
 - 4 次年度のスクールカウンセラーの配置について【公開】
 - 5 教員間のトラブルについて【公開】
 - 6 分権型教育行政にかかる情報提供【公開】
 - 7 その他【公開】
- ・各議題について意見交換

議題1 令和元年度 校長経営戦略支援予算加算配付について

(区より説明)

- ・淀川区の各校への加算配付の状況を情報共有する。
- ・予算が認められても執行段階において学校経営管理センターから支出科目が適切でないなどの指摘を受け、執行が止まるなど困っていると聞かすが、いかがか。問題点や選考への疑義や今年度の執行についてもお困りの点などあれば、ご意見をお伺いしたい。

(意見交換)

- 今年度申請書が簡略されたのは、負担感的に非常にありがたいと思っているが、提出日や修正期日についても余裕のある日程にしていきたい。
- 加算配付で認められたタブレットの購入において、ICT 機器は教育委員会で一括して入札を行うことになっているが、結果は不調となり 2 月以降にならないと納品がされないとのことで、結局今年度の活用はほとんどできなくなってしまった。不調になったことの改善は難しい部分もあるが、予算配付時期を早めるなどの工夫が必要。

議題2 ヨドネル睡眠月間について

(区より説明)

- ・主に保護者から「強化月間を設定してみてもどうか」とのご意見をいただいていたことを受け、区として今年 12 月から「ヨドネル月間」に取り組んでいきたい。
- ・各学校では 12 月のある週やある日にイベントや取組をやっていただきたい。
- ・区役所は今年から寝具メーカーの西川株式会社と連携しており、西川株式会社の協力を得て子ども用の枕の自作体験を実施する。保護者とペアになって自分用の枕を作ってもらい、枕への愛着を高めることで睡眠への導入としたい。12 月 1 日からチラシで周知したいので、各学校でのご協力をお願いします。
- ・中学校長から睡眠月間の取組について区役所からの通知があった方が取り組みやすいとの意見をいただいたので、区役所から通知文を送付する。

(意見交換)

- 学校説明会で、来年入学予定の保護者にヨドネルの取組についての話をした。その際に新入生は 8～9 時には布団に入れて寝かせてほしいという、すごく驚かれたので就学前の子どもたちと保護者にも睡眠の大切さについて周知して行ってほしい。とくに保育所に通っている子は、共働きの家庭が多く子どもたちも寝るのが遅くなるケースが多い。

⇒区より

非常に貴重な意見だと思うので、未就学の担当部署とも連携して進めていきたい。

議題3 次年度に向けた検討状況について

(区より説明)

- ・来年度の予算要求について主な変更点を説明する。
- ・英語交流事業で夏休みに実施している英語イベントについて、クラブ活動等で忙しい中学生の参加は

見込みにくい。一方で、小学校では来年度から英語の教科化が始まるため、小学生を対象をしぼり事業を進めていきたい。

- ・現在、区役所の予算で校外学習や登下校の見守り等をサポートしている発達障がいサポート事業と、教育委員会の予算で行っている特別支援教育サポーター事業を、来年度から一元化し、これまでの有償ボランティアという形態ではなく、会計年度任用職員として雇用していく。

(意見交換)

○雇用を2回まで更新できるとあるが、その後はどうなるのか。

⇒区より

2回更新後に再度雇用したいとなれば、新たに任用試験を受けていただくことになる。

○試験の日程は未定か。現在のサポーターの方に不安な思いをさせてしまうので、早く伝えたい。

また、次年度始業日の4月8日から配置できるように配慮をお願いします。

⇒区より

試験の日程はまだ決まっていない。始業からの配置についても教育委員会に伝える。

当区の発達障がいサポート事業は、校長先生方の要望も強く、もともとの予算枠に区役所予算をプラスして実施してきた。今回教育委員会にプラスした予算も合わせて事業移管するので、教育委員会にはこれまでどおり配置するように言っている。情報が入れればすぐに共有する。

○淀川区分として教育委員会に渡しても教育委員会は市全体の総量として計算するのではないかと、ちゃんと配置されるか心配。

○次年度の教育委員会組織が4ブロック化になれば、ブロックの中で流用していきそうで余計に不安。

⇒区より

淀川区の予算分は必ず淀川区にきちんと配置するよう強く伝えている。

○サポーターは公募になると思うが、学校が見つめてきた人が試験を受けた場合、希望の学校に配置されるのか。今までもなかなか配置されないことがあり、苦勞したことがある。

⇒区より

今わかっているのは、一般職員と同じく幅広く募集して試験を実施して採用するという。職業的な身分が保証されるという面で応募が増えるかもしれないし、現在有償ボランティアだからやっていたという方は応募されないかもしれない。

○これまではサポーターの状況により、勤務日数の融通を効かせてうまく配置出来ていたが、会計年度任用職員になっても可能なのか。

⇒区より

少ない勤務日数でも会計年度任用職員として任用できると聞いているが、もしかしたら今より月の勤務日数の融通などは効きにくくなるかもしれない。

○これまでは発達障がいサポーターと特別支援サポーターは時間を分けていたが、今後は境目がなくなるという理解でよいか。

⇒区より

これまでは授業中と校外学習というような分け方をしていたが、一緒になる。

○時間給での支給となるのか。

⇒区より

月額、時間給での任用形態もある。

○運用に関しては家庭の事情等で来れないサポーターの代わりに他の人に入ってもらえると思うが、時間の上限がある。管理上は区と教育委員会と分けて管理する手間はなくなるということかと思う。

⇒区より

学校からは2種類あった方が使い勝手がいいという意見があり、続けてきたが、今回は全市的に一本化すると決まったのでそれに沿っていくしかない。情報共有し、困りごとを把握し改善していきたい。

議題4 次年度のスクールカウンセラーの配置について

(区より説明)

- ・スクールカウンセラーの配置については、教育行政連絡会で多く議論いただいた内容を反映した。まだ案の段階だが、区としてはこの体制でいく予定。

議題5 教員間のトラブルについて

(区より説明)

- ・神戸市や奈良県で起こった教員間トラブルについて、PTAからも心配のお声をいただいているので、今回の議題とさせていただいた。
- ・区役所で調査をするということではなく、学校での困りごとや影響などがあれば、お伺いしたいという趣旨。

(意見交換)

○神戸市や奈良県では当該校ではない学校でも保護者からの問い合わせが殺到し、子どもからの信頼も低下したと聞いている。報道が過熱して事実と違うことが報道されていたこともあった。もちろんあってはならないことだが、事実だけを見つめて報道していただきたいというのが現場の意見。

○マスコミ報道に規制をかけることは出来ないと思うが、プライバシーや子どもへの影響も勘案して責任をもって報道していただきたい。

⇒区より

学校協議会で委員からも大丈夫なのかと確認の意見が出たりしている。過熱した報道のされ方をしているので各学校での負担感が気になっている。

議題6 分権型教育行政にかかる情報提供

(1) 学校協議会委員研修について

(区より説明)

- ・主に初任者を対象に学校協議会委員研修を実施した際のアンケート結果について、情報提供する。2月にはすべての委員を対象とした研修を予定している。

(2) アンケートについて

(区より説明)

- ・昨年度と同様、全市で実施する分権型教育行政に関するアンケートと市政改革に関するアンケートを今年度も実施する。

(3) 「淀川区生涯学習フェスティバル 2019」について

(区より説明)

- ・淀川区生涯学習フェスティバルを12月1日(日)の12時半から16時半まで開催する。オープニングは淀川区子供会連合協議会にお願いしている。

(4) 第10回絵本展「ものがたりのちから」について

(区より説明)

- ・毎年開催している絵本展「ものがたりのちから」が今年は10回目を迎える。主に乳幼児、小学生低学年を対象に区役所5階で開催する。チラシは1月10日頃に発送予定なので、よろしくお願ひしたい。

議題7 その他

【子ども見守り放送について】

(区より説明)

- ・防災無線を使って現在午後4時50分に子ども見守り放送を流している。これまでも賛否両論あるが、ボリュームが大きいという意見や時間を細かく区切って放送してはどうかといった意見をいただいているが、今までどおり進めていきたい。

【「淀川区冬休み子ども相談」の広報協力について】

(区より説明)

- ・教育委員会ではLINE相談も実施しているところだが、区で開催している人権啓発推進員連絡会の中で、やはり顔と顔を合わせて相談を聞くことは意義があるというご意見もいただいたので、この冬休みから休み前と休み明けに相談会を実施していく予定。
- ・具体的には12月26日は区役所4階の市民協働課相談室で、12月27日と1月7日は区民センターにおいて、人権啓発推進員が区在住の小学生・中学生・高校生を対象に相談対応をする予定。
- ・12月の広報誌に掲載予定だが、保健室の近くや掲示板等に貼り出せるような学校向けのチラシを現在作成中なので、お送りした際は掲示のご協力をお願いしたい。

【就学時検診、発達障がい等の把握について】

(意見交換)

- 発達障がいは就学時検診等である程度把握できたうえで迎え入れられるが、発達障がいの他に愛着障がいというのもあり、これについては把握するのが難しい。就学前の施設や区役所で把握している情報は出せないと思うが、もう少し柔軟に情報交流が出来るようにならないものか。とくに保育所から情報がもらえればありがたい。

⇒区より

次年度から始まる子どもサポートネットで、そういった情報も共有できるように検討していければいいのかなと思う。

○区の保健師は新生児から健診等でずっと子どもの療育や発達の状況を把握していると思うが、概ね小学校に入学するころに支援が必要な子どもがどれくらいいるのか、把握できているのか。

⇒区より

妊娠期から切れ目ない支援を保健師が行っており、3歳までは3歳児健診等で把握できているが、4・5歳児は健診がないので捕捉しきれていない。市長の方針で、重大な児童虐待をゼロにすることをめざしており、次年度から就学時検診とは別に4・5歳児の状況把握を実施していくために保健師を増員する予定。しかし、情報を掴んでもそれだけでは意味がないので、活用できるような制度にしていかなければならないと。

○就学時検診は、入学したい学校で受けたという保護者が多いので、4・5歳児の状況把握のタイミングでスクリーニング出来ればいいのではないかと。

○4・5歳児の状況把握の機会を新設するなら相談等も手厚くして欲しい。発達障がいのことなどは、保育所からは話しにくいとも聞いているし、入学前に支援学級の話をするチャンスである。

○最近、支援学級への入級を決めた児童の保護者に聞いてみると昔の養護学級のイメージを持っておられたが、今はクラスに入り込んで支援していくので、クラスで同じ授業を受けていくと説明するとすんなり納得された。

⇒区より

4・5歳児の状況把握の機会にアナウンスしていくことは非常に有効。

【発達障がいサポート事業について】

（意見交換）

○入学当初は普通学級に入ってきた子どもが去年・今年と4～6人が年度途中で特別支援学級に入級するというケースがあった。4月当初の児童数で特別支援学級数が決まるため、年度途中でケアする対象が増えていき大変な状況になっている。教育委員会に人的サポートを求めているが難しい。こういった事案に対して区の発達障がいサポーター制度が上手く活用できればと思う。4月の状況ではなく柔軟に対応できる体制があればありがたい。

⇒区より

当初の見立てと変わった時の対応など、実態に合わせた形で考えていってほしいという意見を教育委員会にあげていきたい。

【学校選択制アンケートについて】

（意見交換）

○学校選択制の保護者へのアンケート結果は学校に共有してもらえないのか。

⇒区より

区独自のアンケート結果の一部は学校案内冊子に掲載しているが、区全体の結果を学校へお渡ししているかどうかは確認する。なお、市全体の結果はホームページで公開している。淀川区からも教育

委員会へ意見を言っていた学校選択制の総括について、来年・再来年度くらいまでに大阪市全体で実施する予定と聞いている。

○学校選択制が今後も継続していくかどうかの総括もするのか。

⇒区より

それも含めて保護者や地域に聞いていこうということ。

○アンケートは選択制という選択肢があった方がいいのかどうかという聞き方なので、それであればあった方がいいという回答になることは明白。公教育としての意義・メリット・デメリット・手続き方法・費用対効果なども含めて、やることに価値があるのかどうかを問わないと意味がないと思う。

⇒区より

区長会議の子ども教育部会で、学校選択制の見直しアンケートを実施する際にどんな項目にしようかと議論していた。一定意見を集約したが、選択制を否定するような項目に偏ってしまい、現在部会で項目の検討を続けている状況。

【校長経営戦略支援予算（加算配付）について】

（区より説明）

- ・申請書が簡素化されてよかったとの意見があったが、第3者による審査講評を見ているとPDCAの観点が不足している等の指摘が多かった。中学校の教育行連では、申請書記載欄の枠が狭くなり、詳しい現状・課題等を書こうにも書きにくいとの意見もあった。また、次点選定校は20万円が配付されるが課題を解決するために必要な予算を要求しているのに、20万円だけもらっても使用用途も限定されていて使いにくい。

（意見交換）

- 申請書が簡素化され、審査はしにくくなっているだろうし、評価の差をつけるのも難しいと思う。
- 授業用PCは学級数しかないため、習熟度別教室・理科室用にPCと大型モニターの設置を申請し予算が認められたが、果たしてこれは学校長の特色ある取組なのかと思っている。
- 教育委員会の入札不調でまだPC等は納品されていない。再入札とって2月や3月に納品されても成果は測れないし書けない。
- どこでやってもいい結果が出るようなベストプラクティス的なものを全校展開していくのが良いのではないか。
- 1年間で結果はなかなか出ないので、PDCAを書くのは難しい。働き方改革の観点から、加算配付をやめて、基本配付を増やしたり、全校にスクールサポートスタッフを配置するなど、人件費に使えるれば若手教員の育成や生活指導の充実も図れ、子どものためにもなる。
- 人件費に多く使えるようになれば、突発的な事案にも対応しやすくなるのではないか。
- 当該校の学力に緊急性のある課題があれば、学びサポーターに全額つぎ込んでいる学校もあると聞いている。学びサポーターは遠足には行けないが、教室には入ってもらえる。
- 今年は学力向上につながる取組限定となったが、学力向上のための加算配付では、各校同じような取組になるし特色ある学校づくりにはつながらない。学力だけでなく体力や安心・安全もあるので、元の制度に戻してほしい。

⇒区より

いただいた意見を伝えていきたい。

【講師等の派遣について】

（意見交換）

- 体力向上のために区役所から出前講座でいろいろな講師を派遣していただき、教員も指導法の参考にさせてもらっている。ぜひ続けて行ってほしい。
- スポーツ出前講座の講師派遣は走り方を教えていただいたり、ぱっと来ていただけるのでありがたい。
- 非常勤講師の数も足りないし、質も低下している。来てもらったからには退職したりしないように丁寧に対応しているが、来てもらうことで学校運営がよりしんどくなることもある。
- 理科補助員は、教員も慣れてきて成果がせっかく上がってきているのに、1年ですぐに引き上げられてしまう。生活指導員もすぐに日数が減らされたりする。成果の維持についても考えてほしい。スクールサポートスタッフはすごく助かっているが、これもずっと配置されるのかわからない。
- ICTについては、モデル校に見に来いと言われるが、ICT支援員がいるから出来るのであって支援員がいなくなれば、何十台ものタブレットを授業前の休み時間に立ち上げておくとか大変で負担が大きい。継続的に月2回だけでも来てくれるとありがたい。
- 担任が休職すると代替の職員が確保できず、管理職（教頭・教務主任）が担任を兼務することになる。そもそも産育休の代替も確保できていない状況。どんどん余裕がなくなっていく中で、年度途中で日本語指導が必要な子が入ってきたり、特別支援学級への入級者がいたり、保護者対応等でいっぱいになっている学校が区内に限らず市内にたくさんある。
- 7割近くが実務10年未満の教員となっている現状から、近いうちに産育休を取得する教員が多くなり、代替講師等の人材の確保ができなければ現場は疲弊する。これから何十年もこういう状況が続いていくことが想定されるので、中堅層が管理職になりたくないという悪循環が繰り返されるのではないか。
- 区役所から各学校にボランティアなど色んな人の配置をしてもらっていることで、子どもが落ち着いたり助かっている。

⇒区より

人の派遣についてのニーズが一番高いと感じたので、引き続き進めていく。また代替人員の配置が必要だが、代替が誰でもいいわけではないと思うので、教育委員会に意見していきたいと思っている。

【英語の教科化について】

（区より説明）

- ・来年度から英語が教科化されるが、そこへの人員配置はあるのか。

（意見交換）

- 特に何も聞いていない。現状のC-NET（大阪市外国語（英語）指導員）の配置についても1年目は1日、2年目は午前中のみ、3年目は午後のみとどんどん減らされていく。
- 今年後だけの配置になっている。教育委員会に相談すると今年は公平に配置するように中学校にも言っていると聞いたので、中学校に伝えると1学期末にバタバタと配置してくれたが、2学期になると元

通りになっている。

○今は移行期で総合の学習を英語に 15 時間使っていると言われていたが、来年度以降 75 時間の授業時間を確保できるかと言われると難しい。

○同じ中学校下でも授業時間を増やす学校と、運用を工夫して授業時間を増やさずに実施する学校がでてくる。そうすると近隣の学校なのに A 校は時間を増やして頑張っているのに、B 校は時間を増やさないから頑張っていないんじゃないかといった意見も出てくる。カリキュラムについては校長が校内の中で特色を出して出来るが、区内で合わせる方がいいのか、中学校下で合わせる方がいいのか、各校の特色を出してバラバラにするのがいいのかといったことを検討している。各学校の状況は、区役所と連携しておいた方がいいと思っている。

○大阪独自の英語活動として短時間学習も課外活動としてやり続けることになったが、これも負担が大きい。

⇒区より

英語について、区が夏休みに実施しているイベント参加者が 100～200 人弱なので費用対効果から考えても事業をやるのがいいのか、人を派遣する方がいいのかなどをお聞きしたかった。次年度の予算措置は出来ないが次々年度に向けて、また意見・アイデアをいただきたい。

【土曜授業について】

(意見交換)

○10月の土曜授業が台風で中止になったが、教育委員会に確認すると年3回やる必要があると言われた。急遽12月に行事を組み込んだが、3回という回数に縛る必要性に疑問を感じている。土曜授業そのものの効果・必要性にも疑問がある。代休も取れない状況にある。土曜授業のあり方についても考えていただきたい。

○土曜授業の趣旨が曖昧になっている。そもそもは文科省通知によりコミュニティとの関係づくりの観点から始まった。大阪市の場合は学力に課題があるので学習時間の確保に向けたが、今では夏休みの短縮等で授業日数的には足りているし、絶対年3回という縛りは必要ないのではないかと。

⇒区より

土曜授業の基本的な考え方の整理が必要ということか。働き方改革・教員の負担軽減の話も出ていますので、意見は教育委員会に伝えていく。

【学校選択制について】

(意見交換)

○学校選択制など、チャレンジして取り組むのはいいが、やりっぱなしが多い。理科補助員もそうだが、いい制度で非常にありがたいと思ったらすぐに引き上げられる。いいものは継続して行ってほしいが、あかんものはなくしていくなど整理をきっちりやってほしい。

【習熟度別学習について】

(意見交換)

○次年度から専科教員のモデル校が何校か選ばれるが、モデル校では習熟度別学習の教員を引き上げ、

代わりに専科教員を配置していくとのこと。これだけ習熟度別学習が効果を上げているのに専科を優先していくという方針のようで、一貫性がないように感じる。

【教育振興基本計画について】

(意見交換)

○教育振興基本計画改定時に、学校選択制・習熟度別学習・土曜授業なども総括して新しい方針を出してほしい。先日、教育委員会から改定に向けてのアンケート協力依頼があり、教育振興基本計画に反映させるとの触れ込みだったので、教員・PTA・学校協議会委員にも協力してもらったが、質問内容が全然わからないとの意見が噴出した。最後の自由記述欄になってやっと意見を言えるような非常にわかりにくく何のためにやっているのかわからないアンケートだった。

⇒区より

区長会でもアンケート結果について、今後議題にあがると聞いている。

○学校は人的な支援を求めているということを教育委員会にしっかりと伝えていただきたい。